

## 研究課題構想・概要

課題名 「日本社会に適した危機管理システム基盤構築」

研究代表者名 「林 春男」

中核機関名 「京都大学防災研究所」

### 研究の目標・概要

1. 目標：1年目：欧米における市民安全対策（Civil Defense）計画としての危機管理計画の分析  
2年目：我国の社会制度に適した危機管理システム基盤に関する素案の提示  
3年目：我国の危機対応標準を目指す危機管理体制の提案と実現ガイドラインの作成
2. 内容：いつ起こるともわからない予想外の危機に対して効果的に対応できる人材を多くもつことは重要な社会基盤整備であると考え、どのような危機場面にも適応できる一元的な危機管理システムの基盤を構築する。まず、米国、英国、EU 諸国における市民安全対策（Civil Defense）計画として採用されている一元的な危機管理計画の実態を調査・分析し、欧米の危機管理の基本となる ICS（Incident Command System）が我国に適応可能か、可能な場合に整備すべき事項は何かを明確化する。次に計画運用を支える組織運用、情報処理・対応プログラム、人材育成の各側面について、我国の社会制度上適応可能なシステムの素案を提示する。最後に防災先進自治体を事例として素案の実効性を検討し、我国の危機対応の標準を目指す危機管理体制を実現化するためのシステムのガイドラインにまとめる。
3. 緊急性：わが国は先進諸国の中で一元的な危機管理システムを持たない。しかし、都市洪水災害の激化、南海トラフ沿いの広域巨大地震の発生、BSE 対策、同時テロ、近隣国からのミサイルの脅威、SARS など、各種の予想外の危機的な状況が続発し、わが国でも抜本的な危機管理策の構築は急務である。
4. 独創性：予想しないどのような危機が発生しても、国民の生活や企業活動を守るために必要となる包括的な災害対応計画の構築を目指している
5. 他の競争的資金等には馴染まない理由：各種の危機に対応できる一元化された危機管理システムの構築は、我国の安全安心に関わる施策提案に直結した研究である。

### 諸外国の現状等

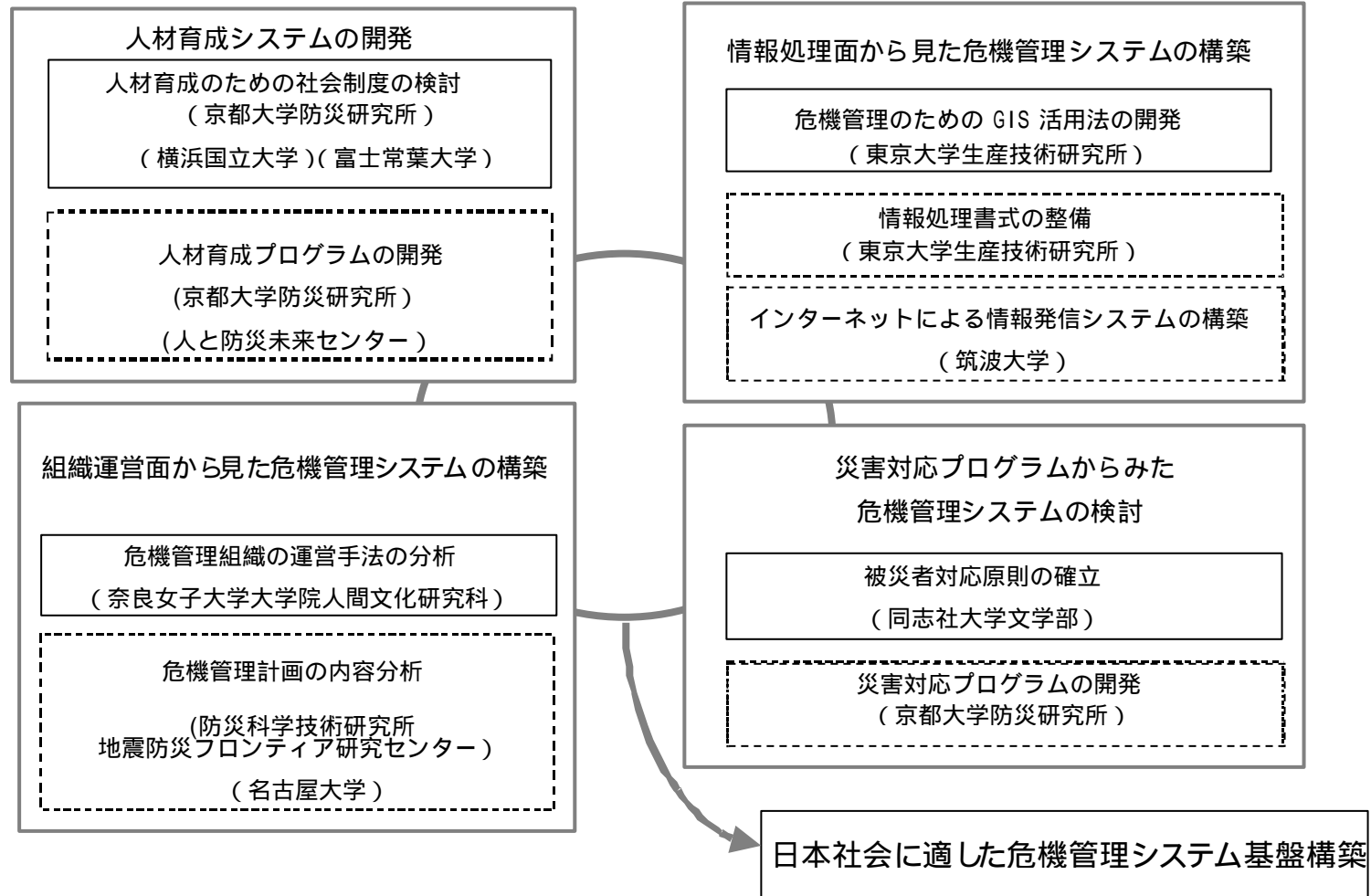
1. 現状：米国、英国、EU 諸国などの先進諸国はどのような危機にも対応できる一元的な危機対応体制を構築している。2001 年 9 月 11 日の米国での同時テロは、予想外の事態にも一元的な危機管理システムが有効に機能することを証明した。それを受けて各国は精力的にこのシステムの見直しと強化に入っている。
2. 我が国の水準：先進国で一元的な危機対応体制を整備していないのは我国だけである。もっとも広範な危機管理体制を持つのは災害対策基本法であり、危機対応システムに関する研究は自然災害研究の枠内でだけ、これまで実証的な研究成果が残されてきている。

### 研究進展・成果がもたらす利点

1. 世界との水準の関係：自然災害の場合でも、わが国は災害の発生予防を中心として「防災」では世界一の水準にある。一方、従来軽視されてきた「減災」力を、どのような危機にも対応できる一元的な危機対応システムとして整備することで、文字通り世界最高の防災水準を持つ国となり、今後世界の範となる。
2. 波及効果：本研究は科学的政策的な観点から、これまでの要素技術中心の被害抑止のための防災科学技術のあり方を、総体として災害の影響を極小化するために何をなすべきかへと見直しを迫っている。ガイドラインの構築によって、タテ割りの弊が指摘される我国の防災体制に対して構造改革を迫り、関連機関間の総合調整のあり方を提案し、いかなる危機事態に対しても対応可能になる。

# 研究体制図

課題名 「日本社会に適した危機管理システム基盤構築」  
研究代表者名 「林 春男」  
中核機関名 「京都大学防災研究所」



# 日本社会に適した危機管理システム基盤構築

